

座談会

映画「食堂ゆすかわ」と地域の絆



座談会風景

〔出席者〕

○ 遊子川地区

中井圭介（遊子川公民館） 三瀬逸雄（林業）
辻本京子 富永奈都代 水口美鶴 宮本伊智子
稲垣カヤ子 高田八重（以上リコピンズ）

○ 司会

谷川 昭司 えひめ地域政策研究センター研究部長

平成28年2月3日（水）、西予市城川町遊子川において座談会を行い、遊子川地区で撮影された映画「食堂ゆすかわ」について、撮影中のエピソードや、公開後どんな反響や効果があったのかについてお話しをしていただきました。

【司会】皆さんこんにちは。本日は、この遊子川地区で撮影された映画「食堂ゆすかわ」について、撮影中のエピソードや反響、また、地域にどのような効果をもたらしたのかをお話しいただけたらと思います。まず、自己紹介をお願いします。

【高田】食堂ゆすかわで週1回スタッフをしています。普段は農業をしています。
【稲垣】同じく、リコピンズで食堂のスタッフをしています。家は農家です。
【宮本】同じく食堂ゆすかわのスタッフで農家です。

【水口】私は普段は公民館で働いています。リコピンズのメンバーです。映画撮影のときはPR実行委員でした。

【富永】最近まで会社員でしたが、退職して食堂ゆすかわで働いています。

【辻本】トマト農家ですが、リコピンズの代表をしています。この食堂と隣の加工

所の運営に携わっています。映画撮影の際には実行委員をしていました。
【三瀬】林業をしています。映画にも出演させていただきました。
【中井】公民館の中井です。よろしく願います。

【司会】さて、最初にお聞きしますが、皆さんは映画には出演されましたか。

【辻本】ちらっと出たとかを含めると、全員何らかの形では出演しています。特に、富永さんの御主人は食堂の大將役として主役級で出演しました。

【三瀬】私は診療所の医者役で出演し、患者の家族に臨終を告げる役でした。

【司会】若いお医者さんの前任の医者役ですね。気づきませんで失礼しました。

【中井】撮影時は遊子川公民館を食堂ゆすかわに見立てて撮影しましたが、自分も客の姿で出演しました。

【司会】他の皆さんも、食堂のお客さん役で出られたのですか。

【水口】監督の注文が、客は高



辻本さん・三瀬さん（左から）

稲垣さん・宮本さん



高齢者と若い人ということだったので、私たちはあまり出ていません。

【三瀬】撮影スタッフのまかないなど裏方の仕事が多かったよね。

【水口】監督が望む年代の人を捜して、出演交渉をするのが大変でした。

【司会】出演した子供も地元の子ですか。

【水口】そうです。

【富永】映像として出演した人が62人、裏方を入れると100人以上が何らかの形で映画に携わったと思います。衣装だけ貸したとかいう人もいますし。

【中井】地域の人が皆で撮影を支えました。

【司会】撮影中のおもしろいエピソードがあれば教えてください。

【水口】撮影中は余計な音を立てないようにしなければならぬのが大変でした。

【三瀬】猫が通ったとか、風が吹いたとかその度に撮影が中断され、映画撮影は非常に効率の悪いものだと分かりました。

【辻本】大変だったのが、トマト



リコピンズランチ

を収穫するシーンで、カラスが鳴いて何度も撮り直しになりました。

【水口】私は、地元の人に出演依頼をする役回りだったのですが、亡くなる高齢者の役を頼むのに、なかなか言い出せず、出演だけ承諾してもらい、撮影当日になってから亡くなる役だとお伝えしたこともありました。

【辻本】ピザを食べるシーンが多く、熱々のピザを焼いて準備しているのに、撮影が延びて、結局ピザが冷めてしまうことが度々でした。

【水口】監督が細部までこだわり、撮影は真冬ののに音が入るからとエアコンも付けられないし、ライトが反射するので、水屋のガラス戸も全部外しました。

【辻本】トマトを収穫するシーンで、何回も撮り直すので、ハウスの中にちょうどよい熟れ具合でよい高さにあるトマトがなくなってしまう苦労しました。

【司会】映画の撮影と実際の食堂のオープンはどうかが早かったのですか。

【中井】撮影している間にちょうど食堂の改修工事をしており、映画の完成と食堂

のオープンがほぼ同時でした。映画の話が決まる前に、農家レストランをやってみようということは決まっていました。

【水口】食堂の名前を何にするか皆でいろいろ考えたけれど、結局、映画のタイトルと同じの「食堂ゆすかわ」がいいやということになりました。

【司会】映画撮影に要した期間は2ヶ月くらいですか。

【中井】役者が演じる部分は2ヶ月くらいですが、風景撮影など別に撮る部分もあるので、映画全体としては、半年くらいかかっています。

【三瀬】遊子川には、夏のアジサイや秋の紅葉など美しい風景があるので、撮影が冬場なので、そうしたものを撮影してもえなかったのが、少し残念でした。

【司会】撮影時のエピソードはこれくらいにして、映画が公開された後の反響や地域の人の評判はどうでしたか。

【三瀬】インバクトが弱いという意見もあったが、地域の紹介ができたという点では概ねよかったと思います。

【中井】監督にお願いしたのは、特産品のトマトを登場させることとほのぼのとした感じの映画にしてほしいという2点でした。でも、それだけでは面白くないので、何か課題が解決していくようなストーリーにしてほしいということも併せて



水口さん・富永さん（左から）

お願いしました。

【辻本】人が亡くなるシーンは、集落が寂しくなっていくので外してほしいと言ったのですが、今、都会では自宅で亡くなる人は減っているの、近所の人に看取られながら自宅で亡くなるシーンに、監督はこだわりがあったようです。

【司会】地域で映画を作ったこと自体の評判はどうでしたか。

【中井】特に批判的な声はなかったと思います。ただ、別々の場所で撮ったシーンをつなぎ合わせて編集するので、実際に撮影した場所と異なる場面での映像が流れるのがおかしいという人がいました。

【三瀬】監督が、映画は「作るもの」なので、実際と異なってもいいと言っていました。

【中井】いろいろな場面に立ち会いましたので、映画の撮り方やカメラワークが少しは分かるようになってきました。

【水口】主人公が

度々立ち寄る「たもと岩」が有名になり、結構見学の人が来ます。映画を見た人が、ロケ地を見て、ついでにここで食事をしてくれる人もいて、相乗効果が上がっていると思います。

【司会】先日、映画「世界の中心で愛をさけぶ」のロケ地となった高松市の庵治町へ行ってきました。「純愛の聖地」と呼ばれ、今でも若い女性が見に来てくれるそうです。記念館の人も、映画を見て感動した人がその土地の良さを広げてくれ、ファンの人が聖地を作ってくれるものとおっしゃっていました。ところで、出演した地元の子供達の反応はどうですか。

【中井】出演した子供が度々テレビの取材を受けて、随分カメラ慣れました。本人にはいい思い出になると思います。

【水口】出演者で、すでに亡くなった人が2人います。でもその姿が映像に残っているのを見ると懐かしく思います。食堂の大將役で出演した富永さんはすっかり



たもと石

有名人になって、食堂のお客さんから、2ショットでの写真撮影を求められたり、サインを求められたりしています。

【司会】ここに来れば、あの映画の2人に会えると思ってくる人もいるのでは。食堂の来客数はどれくらいですか。

【水口】月に5日しか営業していないのですが、平成26年1年間で、視察の人を含めて約3,000人が来てくれました。1日当たり約40人程度になります。

【司会】映画を見たから来てくれたという人が多いのですか。

【宮本】映画を見たか、若しくはテレビの映画紹介を見たかどうかです。

【司会】やはり映画の効果ですね。シンボルとしての食堂があるから、ここへ来てくれるということですね。

【中井】食堂の看板は、映画に使ったものを譲り受けてそのまま使っています。

【高田】食堂の名前も「雲海の里」といろいろ考えたのだけれども、映画の中の「食堂ゆすかわ」という名前をそのまま使ったのが、結果的には良かったと思います。

【司会】映画に出てきたピザは、この食堂ゆすかわでは出していないのですか。

【稲垣】普段はこの食堂では出していないが、地域のイベントがあるときにしています。

【富永】食堂ゆすかわで出すピザは、イタ

リアンのシェフに、作り方を教わったの
でおいしいですよ。

【中井】この映画を見ると、誰しもピザが
食べたくなると言いますよ。

【司会】映画を作ってみてよかったなあと思
うことは何ですか。

【三瀬】スタッフの食事の世話など裏方の
仕事を皆でやってくれたことに感謝して
います。この時の協力体制や団結心がそ
のまま「食堂ゆすかわ」のスタッフに引き
継がれて、絆が強くなったと思います。

【辻本】撮影期間中は、スタッフの昼食を
ボランティアで作っていました。土日な
しで毎日作るのが大変でした。

【司会】撮影スタッフは、撮影期間中はこ
の地域にずっと泊っていたのですか。

【辻本】松山に泊まって、毎日ここへ通っ
ていました。

【中井】手が足りないときは、私も腕をふ
るって焼きそばを作ったりしました。

【司会】撮影スタッフのまかないをしてい
た人が、そのまま実際の「食堂ゆすかわ」
のスタッフになったのですか。

【辻本】加工品開発班の中から何人かが映
画の実行委員に入って、毎日メニューを
考えていました。「撮影しよるから見に行
こうや」といって見に来て、そのまま手伝
いに引つ張られたという人もいました。
でも、撮影スタッフも若い人が多く、み
んな楽しかったです。



【司会】映画を作って、地域が元気になり
ましたか。

【辻本】自主制作だし、住民も出演して、
自分たちで映画を作ったという意識が高
く、他の地区の人たちからはすごいねと
言ってもらいました。おかげで遊子川地
区の名前は少し有名になりました。

【三瀬】地域を挙げて映画を作るというこ
とは、地域に誇りがないとできないこと
であり、大きな実りがあつたと思います。

【高田】団結力も増したと思います。

【司会】映画の最後のシーンで、あの2人
の関係は結局どうなったのかと気になる
のですが。

【宮本】よくそう言われるんですよ。

【辻本】完結編を見たいとか、続編は作ら
ないのかとも言われます。でも、その後
の成り行きを自分で想像することに深い
意味があるんだと説明しています。

【中井】もう一度映画を作ってみたいとい
う気持ちはありますね。数年後に地域の
活力があれば、もう一度挑戦してみたい。
【水口】普段あまりつきあいのない人に出
演交渉したことで、いろいろな人とのつ
ながりができて良かったと思います。最
初は出演を嫌がっていた人も、出演して

映画ができた後は喜んでいます。

【水口】登場人物がもう少し少なくてもよ
かったかもしれない。でも多くの方が出
演できて思い出には残ったと思います。

【司会】映画づくりは、地域が盛り上がる
ということですね。

【三瀬】撮影が終わるまでは、やり遂げな
いといけないという緊張感と責任感が満
ちていました。

【司会】これからの遊子川地区のPRにつ
いて何か一言あればお願いします。

【辻本】「食堂ゆすかわ」はまだできて2年
です。目立った特徴のない食堂なので、続
けていくにはエネルギーは必要ですが、
地域の憩いの場にな
ってほしいし、笑
顔でのおもてなし
を心掛けたいと思
っています。ここに
しかない雰囲気と
料理を作っていき
たいと思っています
す。

【司会】映画づくり
によって、地域の絆
がより深まったこ
とがよく分かりま
した。長時間どうも
ありがとうございました。



高田さん・稲垣さん・宮本さん・水口さん